

160名参加で 関心の高さを示した 大阪開催

「第2回 字幕付きCMセミナー」



3月22日に大阪で開催された「第2回字幕付きCMセミナー」で一つのチャレンジが行われた。セミナーの冒頭で司会の字幕付きCM普及推進協議会（字幕CM推進協）運営委員長（JAAA^{*1}テレビ小委員会副委員長）の林朋夫氏が「音声認識技術で文字翻訳するUDトークのアプリを使って、手元のスマホで文字を読んでもらえるという便利なツールを使い、情報保障を行います」と紹介したことだ。このレポートもUDトークが記録したテキストデータをもとに整理してみた。

（レポート：吉井 勇・本誌編集長、UDトーク、写真協力：JAAA事務局）

当日のプログラム進行に合わせて、UDトークのテキストデータをもとにしてレポートする。UDトークの音声認識・文字変換のレベルは会場から「想像以上のレベルだ」という驚きや、「会議の議事録作成に使える」などの声が多く聞かれた。



UDトークを開発した青木秀仁氏が運営を手伝う

進行から／林朋夫氏

字幕CM推進協・運営委員長（JAAAテレビ小委員会副委員長）



「字幕付きCM普及推進協議会」を説明します。番組字幕は着実に増加している一方で、CMの字幕付与は1社提供番組によるトライアルが続いておりました。そこで2014年1月から6月にかけて、総務省の主催による『スマートテレビ時代における字幕等のあり方に関する検討会』が開催され、そこの取りまとめを受けて字幕付きCM普及のための関連団体、JAA^{*2}、民放連^{*3}、JAAAの3団体による連携の場として2014年10月に字幕CM推進協が設立されました」

開会あいさつ

字幕CM推進協・運営委員（JAAA専務理事）

「日本は高齢化が進み、難聴者が拡大傾向にあります。そうした変化に対応して、テレビCMを誰が見ても、同じように笑って、同じようなコミュニケーションができるようにしたいと願い、今回のセミナーを実施するものです」



「字幕付きCM 広告主の取り組み報告」① あいさつ／土橋代幸氏

字幕CM推進協・運営委員（JAA電波委員長）



「CMは、商品とかサービスをお客様に確実に伝えるという大切な役割、使命を持ってやっていますが、それだけではなく、笑ったり、感動したり、いろんなことを共有していただけるCMを制作したいという思いでもやっています。1人でも多くの方にCMをお届けしたいという考えは、我々CMに係わる者として強くあり、極めて高い優先順位で取り組んでいます」

「字幕付きCM 広告主の取り組み報告」② 講演「パナソニックの取り組みについて」／新田淳氏

ブランドコミュニケーション本部宣伝部アドメディア推進室長

「当社は2010年3月22日にTBSで放送の月曜20時の1社提供番組『ハンチョウ2』で、企業CM 60秒を国内初の字幕CMとして放送しました。これまでに当社が取り組んできたトライアルで得た知見や懸念を紹介します。



1つはオペレーション面。放送局への送稿が通常素材よりも早まり、通常の仕上げ後に字幕制作の工数と時間が増加します。次にコストの問題です。現状はCM用字幕の制作会社が限られていることもあり、当社の実績ですが字幕編集費用は約40万円、加えて素材搬入時に放送局へ作業代として1本あたり5万円の手数料があります。

2つ目はCMのクリエイティブ面における懸念です。字幕放送の文字は大きくて見やすいのですが、商品や出演者にかぶることも多く、見にくいという意見もあります。このあたりをどう対応できるかという課題があります。